

## 第1回震災遺構検討会議（旧門脇小学校校舎） 概要

日 時：平成28年7月21日（木） 午後4時～午後6時

会 場：石巻市役所6階 第3・4議会委員会室

概 要：

- (1) 「震災伝承検討会議」の役割・スケジュールについて
  - ・震災伝承及び震災遺構に関するこれまでの動きと各会議の関係、「震災遺構」に関する石巻市の方針、「震災遺構検討会議」の役割・スケジュール等を確認した。
- (2) 「震災遺構（旧門脇小学校校舎）整備計画」の枠組み（案）について
  - ・たたき台としての「震災遺構（旧門脇小学校校舎）整備計画」の枠組み（案）を確認した。
- (3) 旧門脇小学校校舎の現況と震災遺構整備等について
  - ・旧門脇小学校校舎の現況と震災遺構整備等に関して各種の情報を共有した。
- (4) 震災遺構（旧門脇小学校校舎）整備等に関する意向・意見について
  - ・校舎の保存を前提とした周辺環境の「整備」、校舎や周辺環境の「利活用」、校舎や周辺環境の「運営・維持管理」について意見を交換した。

### 会議での主な意見

- ・震災直後のまま残された旧門脇小学校校舎内部について「公開活用の是非」、「どのように見てもらうか」を具体的に検討する。
- ・旧門脇小学校校舎内部を、実体験や教訓とセットで参加者が見学し、その意義を参加者で再考する。
- ・みんなが校舎に対してどう感じ、どう受け止めているのか、共有し話し合う。
- ・200軒以上焼けた門脇大火が、50年後震災被災者がいない世の中になった時でも後世に伝わるように、校舎を公園に移転せず、痕跡を残す。
- ・きちんとした伝え方をし、これから活用しやすい震災遺構を作る。
- ・伝承・教育のための震災遺構として、活用する仕方を考える。
- ・地域にとって、ありがたく感じるような遺構にする。
- ・特別教室と体育館を、地域の人々が盆踊りや運動会等を楽しめる様な有効利用をする。
- ・被災前と被災後を記録した写真・DVDを展示する。
- ・校庭で、火災により車の中で亡くなった方もいることを踏まえて考える。
- ・復興の過程をアーカイブし続ける。
- ・「泥（津波堆積物）のまま」の場所は、当時の実情を伝えるため残す。
- ・焼けた部分（玄関と時計、新しく作った碑）は合わせて保存する。
- ・神戸・中越・広島など、先人の取り組みを参加者で視察し、今後数十年間を見据えた遺構の維持管理計画案を立てる。
- ・計画だけを作ってその後は全部お任せとならないように、会議後も参加者の意見を取り入れる。